



中間貯蔵施設事業に係る環境モニタリング調査において、中間貯蔵施設区域内にミサゴの生息・繁殖を確認しております。

写真提供：環境省福島地方環境事務所

●インタビュー●



国立研究開発法人 国立環境研究所

おおさこ まさひろ

大迫 政浩 先生

知のネットワークの共同事務局である環境放射能除染学会の理事長を務めていらっしゃる、国立環境研究所の大迫先生に、中間貯蔵事業のこれまでとこれからについて、幅広くお話を伺いました。

JESCO 先生は、「知のネットワーク」に設立当初から関わり、ご尽力されています。これまでの活動を振り返ってご感想はいかがでしょう。

大迫 JESCO の小林前社長は知のネットワークの立ち上げに強い思いを持たれており、地域を含めたステークホルダーのつながりが復興の基盤になっていくべきではと話されていました。自身もその考えに共感しましたし、学会としても共同でやっていこうとなっていました。学会側は技術的な知識を様々な研究者のネットワークの中で積み上げ、ベースを作っていくという意味での知のネットワークとして貢献してきました。もちろんJESCO も技術実証をサポートしてきたということで貢献して頂きました。

JESCO これまでの活動成果を評価頂くとともに、今後の活動に向けてご提案がありましたらお願い致します。

大迫 震災を経験して強く感じたこととして、復興を進めていくには客観的な知識としての「形式知」は大切だけでも、人が育ち、やる気を持って協力しあって進めていく関係そのものが、実はものごとを進めるノウハウであり、ベースとなります。それを「暗黙知」といい、「形式知」と「暗黙知」が融合することで震災からの復興を進めていく上での実践的な知識「実践知」

になっていくと考えています。

これまで、いろいろな立場の方が入って議論する場を積み重ねてきたことは、方向性としてはよかったと思います。でも、ただ議論するだけでは終わりではないので、積み重ねてきた知識を共有はできたけれども、これからはそれを実践知として実際の復興につなげていくフェーズに移ってきたと思います。

JESCO 環境省では、中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会を設けて、検討を進めており、今年度（2024 年度）が戦略目標の対象年度とされています。大迫先生も委員として参画されており、先生が考える技術開発の今後の展望についてお聞かせください。

大迫 技術戦略の取りまとめ自体は最終ゴールではなく、これまでの議論の総括であり今後の方向性を示すものと考えています。いくつかのシナリオが提示され、その中からどれを選ぶかは、社会での合意形成を踏まえて決めていくことになります。今回は選択肢を提示するまでですが、一方で次は「どうやって社会で意思決定をし、実現していくのか」を検討するフェーズになっていきます。まさにこれから「技術シナリオの導入や社会実装の戦略を議論していく」というような機運が高まれば2024 年度の節目はインパクトのあるものになると思いますし、どのようにしてその機運が高まるように社会に提示できるかが重要と考えています。

●「除染土処分にに関する学生ワークショップ」で全国の学生が学び・発信し・実践する

投稿者

福島大学未来デザインセンター相双地域支援サテライト 加賀谷環
福島大学 経済経営学類 教授 沼田大輔

令和6年9月18日から22日までの5日間、福島県浜通りで、除去土壌（以下、除染土）を学び将来を考える「除染土処分にに関する学生ワークショップ」が行われました。公募で全国から集まった25名の学生が参加し、学生が考えたことをまとめた5つの発表がありました。主催は福島大学の複数の学類の学生などで構成される「除染土処分にに関する学生ワークショップ実行委員会」、共催は環境省 環境再生・資源循環局です。

このワークショップでは、期間中に中間貯蔵施設、飯館村長泥地区の再生利用実証施設等の見学、有識者・実務経験者の話をもとに、除染土の現状を学び、学生たちに何ができるかなどについて議論を重ねました。除染土処分は日本全体の課題であるという認識のもと、除染土に関心のない人たちにどのようにアプローチしていくかなどについて、斬新な意見が多く出されました。

今回のワークショップは、福島大学の学生の問題意識から始まりました。令和5年度に、福島大学の複数の学類の学生などで、中間貯蔵施設・長泥地区などを訪問し、福島大学の学生に伝わる除染土処分の紹介を考えました。そして福島大学の学生に伝えるだけでは、除染土の問題を前に進めることができないと気づき、他大学の学生も参加する今回のワークショップを提案し、令和6年9月に実現しました。

ワークショップ後は、この除染土の問題について、ワークショップに参加した学生が各地で主体的に様々に取り組んできました。そして、これらの取り組みについての報告会が、令和6年12月15日13時30分から16時まで、福島市内で行われました。オンラインと対面のハイブリッドで行われ、除染土処分について、全国の各所で大学生の新鮮な発想を体現した様々なアプローチの進捗が報告されました。



●第10回 知のネットワーク会合を開催します！

減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク会合を「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略目標から次のステップへ」というテーマで開催いたします。なお、本会合は環境放射能除染学会第21回講演会としても位置付けら

れています。

オンライン・オフラインのハイブリット形式で以下の通り開催いたします。どなたでも無料で聴講頂けます。ぜひご覧ください。

日時 2025年1月31日（金）14:00～16:30

会場 日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホール

テーマ 「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略目標から次のステップへ」

★オンライン（Zoom）聴講申込み

メールの件名を『1月31日会合申込』とし、氏名、勤務先名称・所属部署（法人の方）、メールアドレスをご記入のうえ、下記にお送りください。前日までに視聴用URLをお送りします。

i-network@jesconet.co.jp

情報センターだより

▼見学者アンケート

- 安全性はもちろん、何故県外に出さないといけないのかの理由を説明することが重要だと思う（福島市 50代）
- 自分が歩いている土の下全部が除去土壌であるというのが、何だか不思議な感じがした。空気が澄んでいて他の地域と余り変わらないと感じた。（福岡県 10代）
- 知ってもらおうことが大切だと思うので、このような見学の場をもっと増やすと思います（山形県 20代）

▼情報センター見学のご案内

中間貯蔵工事情報センターは無料で見学できます。
（中間貯蔵施設の見学は事前の申込みが必要です。）
詳しくはホームページをご覧ください。



中間貯蔵事業情報センターが新しくオープンします！



中間貯蔵工事情報センターがリニューアルし、令和7年3月15日に中間貯蔵事業情報センターとして新たにオープンします。巨大スクリーン、大型ビジョン、実物、ミニチュアサイズの模型などで、通常は立ち入れない現場の様子を紹介。事業の最新情報も発信。3月14日までは引き続き現 中間貯蔵工事情報センターへお越し頂けます。

移転先住所 福島県双葉郡大熊町下野上大野 116-5 CREVA おおくま1階（JR 大野駅前、常磐自動車道大熊ICから車5分）

レターに対するご感想やご意見、ご要望を下記メールまでお寄せください。
johocenter@jesconet.co.jp



発行：中間貯蔵・環境安全事業株式会社
知のネットワーク 運営チーム